

ハッ橋のいろは

京都を代表するお土産と言えハッ橋。
お土産として買うその前に、基礎知識をお届けします。(晩犬)



ハッ橋ってどんなお菓子？

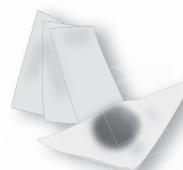
京菓子の代名詞であるハッ橋。一口にハッ橋といっても「ハッ橋」と「生ハッ橋」の2種類があります。

ハッ橋



硬い板状の「ハッ橋」が本来のハッ橋です。米粉と砂糖にニッキとケシの粉を加えたものを板状にのびし、両面にきな粉をつけて焼きあげます。形はそりがあ、琴や橋の形を表しているといひます。

生ハッ橋



「生ハッ橋」はその名のとおり焼かないハッ橋です。純粋に生地だけのものと、正方形の生地を三角折りにしてつぶあんなどを包んだものがあり、特に後者はさまざまな種類が作られています。



ハッ橋の歴史を教えて！

「ハッ橋」誕生から「生ハッ橋」、「つぶあん入り生ハッ橋」へ。そして、さまざまな味へ……

「ハッ橋」は江戸中期の1689年に京都聖護院村の菓子屋で売られ始めたといひます。場所は現在の京大すぐ南の一带です。1889年にはパリ万博で「ハッ橋」が銀賞を受賞し一躍脚光を浴びました。そして、1960年代には「生ハッ橋」が誕生、「つぶあん入り生ハッ橋」が発売され、ニッキと抹茶の2種類の味で20年間独自の世界を作っていました。

ところが、平成に入ってから、つぶあんの代わりにいちご味などのフルーツ系や、芋味などの野菜系、季節感を打ち出したさくら味などが登場します。そして黒ゴマ味のハッ橋、「黒のおたべ」が大ヒット商品として誕生しました。最近では、白みそ味やラムネ味なんてものも……。定番のニッキや抹茶から洋風な味までその範囲はとどまるところを知りません。



いつから京都のお土産として有名になったの？

大正から京都のお土産として有名になったようです。

1912年、大正天皇即位の祝賀行事が京都で行われた際、京都駅では大勢の民衆が京都のお土産を買い求めました。そのときに売れたのは「ハッ橋」と「五色豆」です。以来、京都のお土産といえばこの2つ、というように、全国的に有名な菓子として広く知られるようになったようです。

五色豆



ハッ橋

「生ハッ橋」登場前なので、売れたのは硬い短冊状の「ハッ橋」でした。

はみだし
すてーじ

ようこそ！ 京大へ!! たくさんの優秀な後輩をもてて光栄です。
⇒がんばって少ない優秀な先輩を見つけてください。

(農・2 在学生代表)
(いつか優秀な先輩になるために；編)



ハッ橋の名前の由来は？

名前の由来には、2つの説があり、興味深い逸話が残っています。

やつはしけんぎょう

八橋 倭校 由来説



琴の名手である八橋倭校が亡くなった後、彼を偲び、菓子屋が琴の形に似たせんべいを「ハッ橋」という名前で販売した、という説。

故事ハッ橋由来説



故事「三河国ハッ橋」で川に八つの橋をかけた伝承を皆に知ってもらうために、菓子屋が橋の形に似せた菓子煎餅を作り、「ハッ橋」という名前をつけた、という説。



ハッ橋のオリジナルは？

京都にはハッ橋の老舗は十数軒あり、複数の店が本家や本舗など名乗っていますが……。

現在京都ハッ橋商工業協同組合には十数件の店舗が入っており、本家や本舗を名乗った店がいくつかあります。どこが最初にハッ橋を作ったのでしょうか。

ハッ橋のオリジナルは、八橋倭校由来説では「聖護院ハッ橋総本店」がハッ橋を作り発売したとされており、故事由来説では「本家西尾ハッ橋」がハッ橋を作り発売したとされているようです。両社ともに創業が同じ年です。



有名どころを紹介して！

聖護院ハッ橋総本店



ひじり「聖」
つぶあん入り生ハッ橋。ほどよい甘さのつぶあんに爽やかなニッキで、根強い人気があります。

本家西尾ハッ橋



「あんなま」
名前はあん入り生ハッ橋の語略。他の店と比べて、豊富な種類の味があるのが魅力的です。

井筒ハッ橋本舗



「夕子」
つぶあん入り生ハッ橋。水上勉作「五番町夕霧楼」のヒロインである夕子にちなんだハッ橋です。



珍味が食べたい！

「つぶあん入り生ハッ橋」で、さまざまな味が開発されています。

おなじみのニッキや抹茶の他に、さまざまな味の「つぶあん入り生ハッ橋」が次々と誕生しています。期間限定の味も多く、たとえば右に示すような味などがあります。

「チーズ」「クリーム」 (白心堂)
「蜜りんご」「白みそ」 (井筒ハッ橋本家)
「マンゴー」「ブルーベリー」「ラムネ」
「うぐいす」「塩」 (本家西尾ハッ橋) などなど……。



京都にはハッ橋の専門店が多く、各店それぞれにこだわりがあります。お馴染みのハッ橋からちょっと変わったハッ橋まで、食べ比べてみてはどうでしょうか。

はみだし
すてーじ

永遠の大学生でいたいです。
⇒理論上は8年と休学年分、大学生でいられます

(薬・2 ジーズー)
(卒業した後もう1回受験したら……；編)